



愛隣幼稚園

園だより

.....21.5月

春はウキウキ、そしてニヤニヤ

4月、いつも通りに進級した子どもたちの生活が始まり、入園式を行い、新しい仲間たちが加わって賑やかな園生活になりました。春の庭に子どもたちの賑やかな声があると、それだけでとてもウキウキした気持ちになります。たんぼぼ組の子どもたちの泣いている声も嬉しくて「これでなくっちゃ！」と次はニヤニヤしてしまいます。それを在園のお母さんたちと共有することも、春ならではのことで。数年前、我が子に泣かれて後ろ髪を引かれ、ご自分も涙をぬぐっていたお母さんが私と“ニヤニヤ”を共有してくれたりすると、育てているのは子どもだけはないことがよく分かります。子どもを取り巻く親たちだって最初は初心者マーク。それでも2年、3年と経つうちに“春は泣いてもいいぞ！頑張れたたんぼぼ組！”なんてニヤニヤしながら暖かく見守る余裕もでてきたりするもんです。

先週のこと、たんぼぼ組のM君が首から虫かご、右手にポーター（その上には砂場のスコップ）、左手には三輪車といういで立ちで、「せんせい、ダンゴムシどこにいる？」と聞くのです。それだけで私はくM君、キミはどうするつもりなんだ、これは面白いことが始まりそうだ！>とニヤニヤしてしまうのですが、私の傍に居てそれを聞いていたもり組のSちゃんはニヤニヤなんてしていません。すぐに「してるよ、こっち！」と言って、M君をダンゴムシの居場所に案内してくれる様子。「M君、Sちゃんがあっちにいるって。教えてくれるよ。行ってみよう。」ところがM君、さっきのようないで立ちですから、容易には動けません。「M君、ポーターと三輪車は置いて、行ってみようよ。」声を掛けてはみたものの、絶対に無理だろうなあ、そう思いながら心の中で私はさらにニヤニヤしていました。数ヶ月前までは、幼稚園は嫌いじゃないけどさほど魅力も感じていないような様子だったSちゃんが、年長になってちょっと張り切っています。生き物好きなSちゃんですから、M君のリクエストにもすぐに応えてあげられます。年長らしい姿だなあ、とニヤニヤします。対するM君、あれもこれも全部欲しくて抱え込んでいます。それを手放せないの、やりたいことができなくなっています。でも、M君はそのことには気づいていないようです。ダンゴムシを見つけないのですが、欲しいもの、使いたいものは誰にも取られたくはないのです。年少の頃の子どもたちによく見る姿です。さて、どうなることやら。ポーターや三輪車を使いたい子どもは他にもいるはず。奇襲攻撃（カブくで、あるいは断りなく持ち去られる）に遭うかもしれません。正式な交渉（「カーレーて。」と手放すことを迫られる）を求められるかもしれません。今だけではなく、M君のこれから先にある様々な出会いや、そこに起こる泣いたり笑ったりの出来事は、想像するだけでやっぱりニヤニヤしてしまいます。結局この顛末、詳細は不明（残念ながら私はそこを離れることになったので）なのですが、しばらくしてから出会ったM君は「ほら、ダンゴムシ！」と虫かごに入ったダンゴムシを私に見せてくれました。

子どもに起こることを、こんな風に見てニヤニヤしちゃうのは私がお婆ちゃんになったからかもしれません。でも、すこし引いた心持ちで子どもの様子を観察し、何が起っているんだろう、どうしてこんなことになっているんだろう、どうしたいんだろう、と子どもの心持ちに寄り添っていくと、きっとあなたもニヤニヤしてしまうんじゃないかな、と思います。子どもって面白い！こんな瞬間と一緒にいられる今は、そんなに悪いもんじゃないと思えたら大人も子どもも幸せです。あっ、くれぐれも観察はほどほどに。ニヤニヤしている場合じゃないこといっぱいありますから。